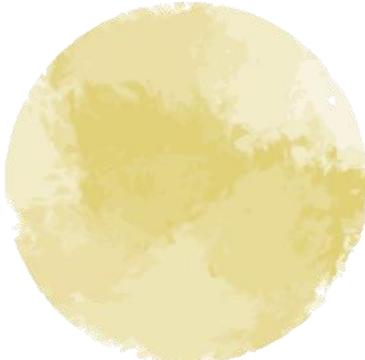




令和7年度第2回 板橋区認知症フレンドリー協議会 開催報告書



板橋区 おとしより保健福祉センター 認知症施策推進係



I. 趣旨

高齢化社会が進展するにつれ、認知症の人の数も増加しています。認知症は誰でもなる可能性のあるもので、家族や身近な人が認知症になることなども含め、多くの人にとって身近なものとなっています。

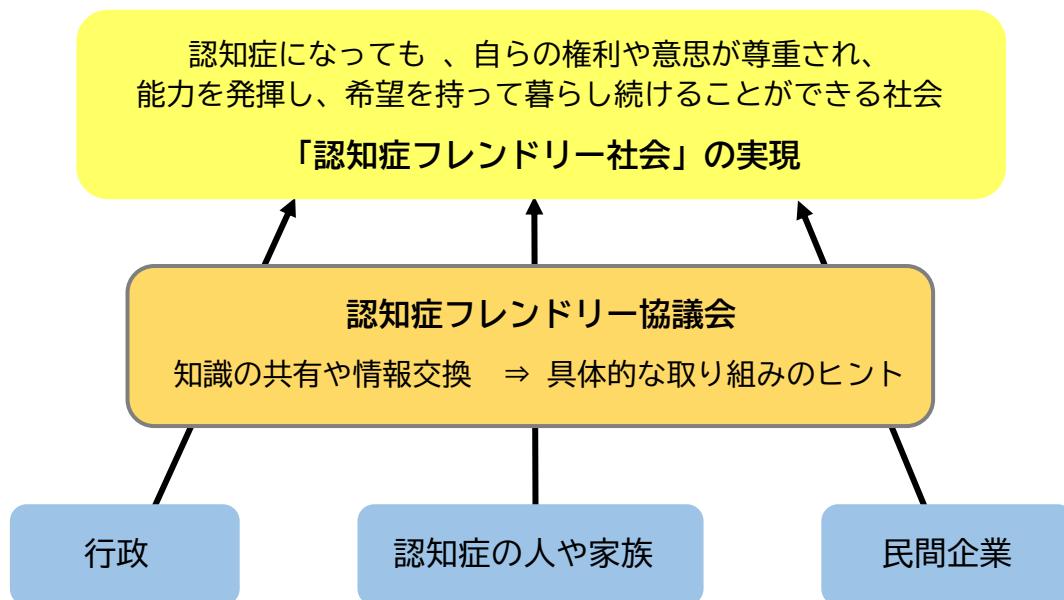
認知症になっても、周囲や地域の理解と協力のもと、希望を持って前を向き、自身の力を活かしていくことで、生活上の困難を減らすことができます。

住み慣れた地域の中で、認知症の人の尊厳が守られ、自分らしく暮らし続けることができる社会を実現させるためには、人が生活する上で関係する幅広い業界及びその関係者の参画と連携が必要です。

板橋区では、官民連携について検討する場として、板橋区認知症フレンドリー協議会（板橋区認知症官民協議会）を立ち上げました。

2. 目的

認知症の人や家族、地域住民、福祉関係者、医療関係者、民間企業、行政等が協力し、認知症になっても、自らの権利や意思が尊重され、能力を発揮し、希望を持って暮らし続けることができる社会である「認知症フレンドリー社会」の実現をめざします。



3. 開催概要

会議名 板橋区認知症フレンドリー協議会（板橋区認知症官民協議会）

日 時 令和7年11月7日（金）14時～16時

場 所 板橋区立グリーンホール 2階ホール（板橋区栄町36-1）

内 容 (1) 講話「地域包括支援センターとは・地域での企業連携」

成増おとしより相談センター(地域包括支援センター)

センター長 豊嶋 ひとみ氏

主任介護支援専門員 那須 泰代氏

(2) グループワーク、意見交換

4. 委員

当日は40名が参加しました（オブザーバー、区職員等を含む）。

委員所属

認知症未来社会創造センター

東京都健康長寿医療センター研究所 自立促進と精神保健研究チーム（2名）

認知症当事者（4名）

清水前野チームオレンジ

チームオレンジ オレンジのロバ

練馬区チームオレンジ

板橋区社会福祉協議会 地域共生課 地域共生推進係

巣鴨信用金庫 ビジネスパートナー部

東京ヤクルト販売株式会社 広報室（2名）

独立行政法人都市再生機構 UR都市賃貸住宅本部 東京北エリア経営部

株式会社URコミュニティ 東京北住まいセンター（2名）

イオンリテール株式会社 南関東カンパニー 東東京事業部 イオンスタイル板橋

板橋区立中央図書館

板橋区立高島平図書館（指定管理者 図書館流通センター）

板橋警察署 地域課 地域総務係 ふれあいポリス担当

富士見おとしより相談センター

大谷口おとしより相談センター

清水おとしより相談センター

成増おとしより相談センター（2名）

5. 協議会の内容

本協議会には、認知症当事者の方4名にご参加いただきました。
会の始めにご紹介させていただきました。



① 開会のあいさつ

板橋区 健康生きがい部 おとしより保健福祉センター所長

② 講話「地域包括支援センターとは・地域での企業連携」

成増おとしより相談センター(地域包括支援センター)

センター長 豊嶋 ひとみ氏

主任介護支援専門員 那須 泰代氏

本日は、おとしより相談センター（地域包括支援センター）のご紹介と、具体的な企業との連携についてご説明します。

おとしより相談センターは、65歳以上の方の相談窓口で、介護、福祉、健康、医療などに関する相談を受けています。その他にも、皆さんの権利を守る権利擁護、暮らしやすい地域づくりである包括的・継続的ケアマネジメント、介護予防・健康づくりのお手伝いである介護予防ケアマネジメントなどを実施しています。

まず、地域包括ケアシステムについてご説明します。

高齢者の数が増え続けていることから、全国的に地域包括ケアシステムの構築が推進されています。地域包括ケアシステムは、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるようにするための、地域の包括的な支援やサービス体制のことです。これの実現のために、板橋区では7つの重点項目があり、認知症フレンドリー協議会も、認知症施策の項目に入っています。

私たち成増おとしより相談センターでは、生活支援体制整備事業の一環として、8年前に支え合い会議という会議体を立ち上げました。月に1度会議を行い、地域の方へのアンケート調



査や、マップづくり、居場所づくり、スマホ相談会などの活動に取り組んできました。

次に、地域の活動に企業の方が関わっていただけたようになったきっかけをお伝えします。

まずは福祉用具事業所のパナソニックエイジフリーさんです。支え合い会議成増では、地域のマップや地域向けのお知らせを作っており、その資料を入れるファイルを作っていました。ファイルはイベントの際やおとしより相談センターで、新規の相談者の方などにお渡ししています。

地域の居場所2か所とスマホ相談会は、月に1回ずつ開催しています。地域の方が来やすい場所を探して、不動産屋やファミリーレストランなどに相談し、場所を貸していただけたことになりました。

スマホ相談会では、スマホ販売を行っているテルル成増店さんが教えに来てくれています。きっかけは、テルル成増店さんの方から声をかけていただいたことです。一人でも多くの方にスマホを便利に使っていただける生活になってもらえばということで、お手伝いいただいているます。

続いて地域のイベントを紹介します。

5月には介護予防イベント「元気になりますフェスタ」を行っています。約200～300人の方にご来場いただいています。

9月には認知症月間イベント「認知症やさしい街では認地笑」を行っています。本日も参加されている認知症当事者の岩田さんや警察の方にもご協力いただき、開催しています。

イベントでは、地域の薬局、病院、企業の方にお手伝いいただいています。測定器をお借りし、血管年齢、骨密度別チェック、認知機能検査などを行っています。地域の皆さんも健康には関心があって、人気のコーナーです。

また、地域の医師・歯科医師の先生方とも連携していて、認知症の説明や、認知症と歯のお手入れの関係についてご講演いただきました。地域のマッサージ治療院、訪問看護、訪問診療の事業所などにもご協力いただきました。

その他にも、多くの企業の方にお手伝いいただいています。本日もいらしている東京ヤクルト販売株式会社の方にも、腸活のご講演をしていただいたことがあります。

こういったイベントのチラシは、新聞販売店の方にご協力をいただいて、無料で新聞の折り込みチラシに入れていただいています。

イベントの準備は大変ですが、参加した方がおとしより相談センターのことを知るきっかけにもなっていると考えています。地域の方、企業の方、お互いにたくさんのメリットがあると思いますので、こんなことだったらできるなんということがありましたら、どんどん声をかけていただきたいと思います。

③ グループワーク、意見交換

成増おとしより相談センターの発表を踏まえてグループワークを行い、各グループで出た意見を共有しました。各グループには1名ずつ認知症の当事者が加わっています。

グループワークのテーマ

- ① 認知症について困ったことや課題に思うこと
- ② 認知症について知りたいこと
- ③ 自分が認知症になったときどんなふうに暮らしたいか

○1 グループ（発表者：UR都市機構所属の委員）

私は、普段は高島平団地でウエルフェアの取り組みに携わっています。健康長寿医療センターが実施している「みんなの農園」という、認知症の方と一緒に畠仕事や収穫をして、それを味わうという活動のお手伝いもさせていただいている。



<テーマ1>認知症について困ったことや課題に思うこと

岩田さんから、認知症の人は、家族の方と同居している前提でとらえられているケースが多いように感じていますが、お一人暮らしの方の不安も多いのではないかと考えており、課題ではないかとお話をいただきました。

具体的な例で言えば、認知症の方が介護認定のときにそのときだけできちゃったり、はいはいとお返事をされたりということがあって、普段の見ている症状と違ったりしてしまうこと。あとはお約束をしたにもかかわらず、訪問をする約束の日にご不在だったといったこともあります。

それから、新しいことがやはり苦手ではないかということで、慣れて信頼してもらうまでの間はお話がしにくかったり、関係性がうまくつくれなかったりすることが多いというお話をいただきました。

それから、手紙でのやりとりについて、ポストを毎日確認するのが難しい。特に高い階に住んでいる方が、1日1回下に降りていくことが億劫だったり、物忘れをしてしまったりというところがあって、こまめに確認ができないという、コミュニケーションの難しさといった話も出ました。

今はマンションなどで、見守りたいのにオートロックで入りづらいというような物理的な問題もあるのではないでしょうか。

あとは社会福祉協議会の方より、ご本人のご意向を汲んで対応したいのですが、前回会ったときとご要望が変わるケースがあり、何がご本人のご希望なのか戸惑ったことがあるということでした。

こういった課題を考えたとき、繋がりや接点が大事なのかなと思います。い

つもイベントに来られる方は元気で、社会との接点がありますが、いつも来られない方やちょっと外出に勇気がいる方、人と話をするのが不安だなと思ってらっしゃる方こそ、課題のある方なのかなと話していました。

<テーマ2>認知症について知りたいこと

当事者の岩田さんが大変良いお話をしてくださいました。人によって症状が出ていても、生活に困っている場合と、困っていない場合があるのでないでしょうかと。また相談先がわからないとか、検診をなかなか受けに来ないという方も、潜在的に多いのではないかと感じました。

なので、そういう方に、どこに相談に行ったらいいですよとか、認知症の診断はこういうところでやってくれますよという情報が、しっかり届けられるようなアナウンスがあるといいというお話をいただきました。

それからとても興味深かったのですが、皆さん認知症には興味津々なのに、実際に勉強会をすると、脳の中の話や神経の話となると、難しくてわからなくなってしまう。なので、例えばフレイルサポートーさんなどがふくらはぎの太さを測るような、目に見えて実感できるような学びの仕方をすることで、印象づけられるのかなというお話がありました。

<テーマ3>自分が認知症になったときどんなふうに暮らしたいか

今まで通りに生活したい。自分の好きなことをしたい。症状を周りの方に伝えることで理解してもらって、安心したい。なかなか自分を話したくない人もいらっしゃいますが、やはりそこは少しの勇気を持って、周りの方に伝えていきたいなどいろいろなご意見がありました。

それから、ご家族は、少し先のことを考えて不安に思ってらっしゃるケースがあると。例えば奥様が認知症で、ご主人は「この先どうなるんだろう」と考えていらっしゃることがあります、認知症当事者の岩田さんからは、「今日何を食べようかな」とか「今日どうやって楽しく過ごそうかな」ということを普段考えていますと。ご家族は先のことをとても心配されるので、ご家族へのケアや、心と時間の余裕というのも、介護される方には大切なのかなというところをおっしゃっていました。

皆で一致した意見としては、人と繋がることで広がっていくことです。診断を受けたら、すぐに前向きにモードチェンジできないかもしれません。ですが、社会参加の大切さや、普段から誰かとお友達になっておこうとか、このイベントだけは出てみようとか。社会の環境においても、ちょっと戸惑っている人がいたら声をかけるとか、お互いに行き来できるような、そういう思ひが通じるようなサポートも必要なのかなというところで、最後意見が一致しました。



○2グループ（発表者：板橋区立中央図書館所属の委員）

<テーマ1>認知症について困ったことや課題に思うこと

当事者の村田さんからは、ひとり暮らしで、鳥を飼っているのが心の支えで、癒しになっているというお話がありました。当然買い物や食事も1人で準備されていて、日々大変だそうです。ただ村田さんは非常に前向きで、積極的にいろんな方に声をかけられるということで、人と会話するということがとても楽しいとおっしゃっていました。小さなことはいろいろありますが、特に大きく困ったことはないそうで、本当に前向きですばらしいなと思いました。



URの方は、緊急連絡先の登録をされていない認知症の方がいらっしゃって、お困りになったそうです。いざというときに家族や親族の方に連絡がとれないのは、非常に大変だそうです。認知症になると、家賃をお支払いするのを忘れてしまうことがあるので、故意ではありませんが結果的に滞納となってしまい、退去せざるを得ないというようなお話もありました。

警察の方からは、いろんな行政の方々と一緒に、地域で合同訪問を行っているというお話がありました。高齢者が詐欺や犯罪に巻き込まれてしまったとき、いきなり警察に相談に行くというのは非常にハードルが高いので、合同訪問を通じて周知して、早めに芽を摘んでおくということが大事なのだと思います。こういった地道な活動が、地域のためになっているんだなと思いました。

あとは私が図書館で勤務していて思うことです。図書館はおとしよりから子どもまで、様々な方がいらっしゃいます。初めていらっしゃった方の見た目では、認知症かどうかはわからないので、どういったことをお手伝いしたほうがいいのかがわからないことが多いです。ちょっとやきもきしていて、解決できないかなあと思っています。

<テーマ2>認知症について知りたいこと

ここではバリデーションについてのお話がありました。認知症の方とのコミュニケーションの手法だそうで、言葉よりも、非言語的な表情などを読み取ってコミュニケーションを取ることを大切にするものだそうです。単に言葉で話しかければいいというわけではなく、相手の表情や声をかけたときの反応を見て、その人の気持ちも汲んで接することが大事なのではないかなと。そういった対応も、学んだだけで実践できるわけではなく、経験を積み重ねていくことが大事なんではないかというようなお話がありました。

とにかく村田さんがおっしゃっているのは、人と話すのは楽しいことですと。待っているのではなくて、こちらから積極的に声をかけるということが大事なんですよというお話がありました。

<テーマ3>自分が認知症になったときどんなふうに暮らしたいか

こちらは村田さんから、積極的にいろんな活動に出られたり、人とお話したり、片や動物を飼って癒しを得て、乾布摩擦をして風邪も引かないというようなお話を聞いたので、村田さんみたいな前向きな生き方ができたらといいなど皆さんおっしゃっていました。

それから、自分が認知症だということを、あまり深く考えないほうがいいのではないかという話が出ました。人と話すときも自分をどんどんさらけ出すことが大事なのではないかなという意見が出ました。

一方で、家族に迷惑をかけるのが嫌なので、施設に入って専門家の指導を受けて過ごしたいという方もいらっしゃいました。

いずれにしても、認知症になったときの状況はそれぞれ違うと思います。例えば家族がまわりにいてサポートを受けられるという場合もあれば、家族が遠くにいて頼れないというような場合もあるので、立場ごとに色々考えて、真剣にお話することができました。



○3グループ（発表者：巣鴨信用金庫所属の委員）

<テーマ1>認知症について困ったことや課題に思うこと

私事ですが、義理の母が認知症の診断を受けたばかりです。皆様から、家族だけで抱え込まないで、頼ったほうがいいよとアドバイスをいただきました。

当事者の藤島さんからは、電子マネーだと幾ら使ったかがわからないことが多いので、最近は現金の支払いに戻したというようなお話をありました。そうしないと、買い物過ぎてしまうそうです。

また、お会計のときに後ろに並ばれるとプレッシャーを感じて焦るので、スローレーンをしっかり作ったほうが、企業としては社会貢献でかえって利益になるのではないかと、藤島さんの視点から見たご提案がありました。

イオンリテールの方からは、お客様がイオンの買い物カートを押したまま東上線に乗ってしまったわわれたというお話もありました。この方は、はたから見たら若い方だったということもあって、外見だけでは認知症の方かどうかはわからないねというお話になりました。

高島平図書館の方からは、利用者が本を傷めてしまって弁償をしてもらいたいのに、何度も言っても現金で払うと言って聞かない方がいらっしゃるというお話がありました。ひょっとしたらその方も、買い物が難しい方なのではないかなというお話が出ました。



<テーマ2>認知症について知りたいこと

私は家族のこともあります、今後どういうふうに認知症が進んでいくって、どういうふうに対処していくべきかを知りたいと思っています。

イオンリテールの方は、認知症に関することについて、どういうふうに連携していくべきか、民間としてできることとはどういうことなんだろうとおっしゃっていました。

藤島さんからは、見える化を徹底する。普段から習慣化して、忘れないようにしていくことが進行しないことだという貴重なお話も伺って、なるほどなと思いました。

認知症の人が、感情的になって、人のせいにすることがあるのはどうしてだろうとか、思い起こせば私の義理の母も、最近怒りっぽくなったりと思っていたらそういうことだったのかと理解しました。周囲が焦らせている面もあるのかなというところで、やはり周りの気づかいなどのケアもこれから必要なのかなと感じた次第です。

<テーマ3>自分が認知症になったときどんなふうに暮らしたいか

これは私の意見で、最後まで食事トイレ入浴などの、自分のことは自分で行いたいと思っています。

反面、手とり足とりの施設に入って、至れり尽くせりのサービスを受けて過ごしたいという意見もあって、盛り上りました。

藤島さんからは、できなくなったことを記憶していくことが大事だと、ただし日記は書かないよというお話がありました。本当にご自身でしっかりとケアされて、進行しないようにというご努力は参考になりました。

それから、できないことを隠さないこと。大変勇気のいることですが、そこから周りの理解が進み、結果、ご自身と周りの方が気持ち良い関係を築かれて過ごすのが一番いいのかなと思いました。



○4グループ（発表者：URコミュニティ所属の委員）

私はUR高島平団地の管理サービス事務所で勤務していて、主に高齢のお客様の相談業務を担当させていただいている。

<テーマ1>認知症について困ったことや課題に思うこと

認知症に対しての偏見や差別の声がやはりあって、特に高齢の方のそういうお話を聞こえてくることがあり、マイナスイメージがあることが課題であるという意見が出ました。また家にこもりがちな方が多く、支援を必要としていると思われるような方を、何とか支援につなげられないかというのが課題であるというお話がありました。



健康長寿医療センターの岡村先生からご紹介いただいたのですが、高島平のココからステーションという施設や、チームオレンジ高島平の認知症の方が農園で働くプロジェクトなど、閉じこもらないために居場所をいろいろと用意しているというお話を聞きしました。他にもちょこっとワークという施設が高島平にはあるのですが、お仕事をして、ちょっと給料をもらえるようなプロジェクトもあるということで、非常に勉強になりました。

<テーマ2>認知症について知りたいこと

新しい認知症観を知りたい、マイナスからイメージを変えていくということを知りたいというご意見がありました。

あとは認知症サポーター養成講座の動画についてのご意見もあって、動画の情報が古いのではないかと。今の実情に合わせた感じで、いろんな症状があるので、アップデートする必要があるのではないかというような話も出ました。

知りたいこととして、これは私が高島平団地でのお客様対応において困っていることもあります。家にこもってしまう方や支援を拒否されている方への、上手な対応の仕方を知りたいと思っています。そのお話を流れで、知らない人の助けは要らないというような方でも、知っている方の助けは受けてくれる方が多いですと、岡村先生からお話をいただきました。

高島平団地では農園などの出かける場所をつくっていき、地域にお知り合いを増やしていくことで、知っている人からの助けを受けられるようになると、そのようにつなげていけたらいいなというようなお話もありました。

<テーマ3>自分が認知症になったときどんなふうに暮らしたいか

住みなれたところにできる限り住み続けていきたいと。そうなったときに自分が周囲にカミングアウトできるようにしてみたいというご意見がありました。

当事者の長田さんからは、行く場所がある社会であって欲しいというご意見

をいただきました。今日のような集まりも含め、知らない方と、どんどんお会いするような場所があるのはとてもよいということです。

あとは、自分が認知症になっても、自分ができることはやって、普通の生活をしたい。ペットと一緒に暮らせるような、例えば施設に入るようなことになんでも、ペットがお世話をしてもらえるような施設で癒されながら暮らしたいというような意見もありました。



○グループワークの感想 認知症当事者 岩田 裕之氏

皆さん本日もありがとうございました。

皆さんの話をいろいろ聞かせていただいて、とても参考になりました。

私もとうきょう認知症希望大使の一員として、皆さんの意見をいろいろなところに発信できればと思っています。どうもありがとうございました。

○グループワークの感想 認知症当事者 藤島 岳彦氏

この会に参加させていただいて、4回目となります。ますます内容が濃くなっていると思います。

皆さんも認知症に対して、とらえ方が随分変わってきているのではないかと思います。自分も多分変わっているのかなという中で、自分の病気に対して自分の理解を深めていく、その伝播を皆さんに伝えていけたらなという思いで活動をしています。

こういったところで皆さんに意見を出していただきつつ、認知症に対して人権とか尊重するとかいろんな言葉を聞いて、私はますます認知症というものの理解と、これから発展もあるのではないかと感じました。認知症に対しての、病気を駆逐していくような、そういう投げかけもちょっとあつたらさらに光明が見えてくるかなと思います。

なかなか一長一短で上手くはいかないと思いますが、「認知症のある人」といった表現をはじめ、認知症の言い方さえもいろんなことが変わってきてる時代になっています。またいろいろな活発なご意見をこれからもいただきたいと思いますので、さらに高みを目指して頑張っていきたいと思います。

今後ともよろしくお願ひします。どうもありがとうございました。

④ 講評

会長：認知症未来社会創造センター長 粟田 主一 氏

総評というより、とても学ばされたことと、すごいなと思ったことをお話しします。

まず学ばされたことは、藤島さんも言っていましたが、認知症というのが、今まで考えていたことと何が違うかです。

認知症によるもの忘れと、年をとることによるもの忘れは違うということを、色々なところで学ばれます。ところが実際はそうではなく、実は私も65歳をこえて高齢者の域に入ってきて、人の名前が出てこないということを経験しました。そういうことの連続線上にあるのが認知症だと思います。認知症の人も一人一人違いますが、決して認知症であるかないかというところに、大きな分断があるのではないということを、こういったグループワークだからこそ実感できるのではないかと思いました。

区職員の方が、大きな成果が得られることを求めているのではなく、この会自体も一つの成果だと言っていましたが、そのとおりだなと思いました。

それから、すごいなと思ったことは、実は前半の成増おとしより相談センターの話です。

令和5年に、介護予防日常生活支援総合事業の指針が全面改訂されました。その検討委員会の座長は私だったので、指針の中には、介護予防日常生活支援総合事業の目的として「認知症や障害の有無に関わらず、すべての人が尊厳ある自立生活を送れる社会をつくる」という趣旨のことが書いてあります。つまり、これまでの目的とは変わっています。

そういう社会をつくるために分断を取り除こうということで、例えば介護予防日常生活支援総合事業は、要介護状態になっても使えるようになったのですが、いろんな取り組みが、総合事業の中でやれるようになりました。それも官民連携です。

後半に話していた生活支援体制整備事業で民間企業と一緒にやっていくという動きの正式名称は、住民参画・官民連携推進事業といって、官民連携で地域をつくることにも力を入れています。令和6年度からスタートして、それを市町村でやれるようにしましょうというふうに変わりました。

ということで、今ここでやっている考え方と同じことが、今や地域支援事業のように、どこでもやれるようになっています。ただ、そんなに簡単に世の中は動くものではありませんが、なんと板橋区はすでに始めているということで、驚きました。

今まで、介護予防日常生活支援総合事業と認知症施策の間には大きな分断がありました。ところが成増の官民連携の話を聞いて、見事にこれが統合されたのだなと思いました。うまくいくのかなとずっと思っていたのですが、うまくいきそうな事例を聞いてすごいなと思った次第です。

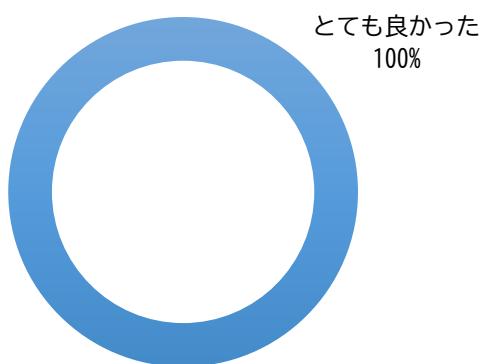
ということで、今日の会は私にとっては、意味のある学びの大きい会で、この会をやること自体がとても重要だと。

あと委員名簿を見たのですが、板橋区社会福祉協議会には共生社会推進係という係があるそうです。共生社会推進係ということは、さらにもっと分断を超えるんですね、つまりもう高齢も子どもも障がいも生活困窮も一緒にやっていこうという。

これらは実は考え方がすべて同じで、相談支援と社会参加と地域づくりの3本柱です。やり方は同じで、しかも官民連携事業。そのうち社会福祉協議会のお話も聞けるのではないかなと思って、楽しみにしております。

6. 委員アンケートの結果

1 本協議会の評価



評価の理由（抜粋）

- とても盛り上がっていた。本人のみなさんも楽しそうでした。
- 認知症の課題を共有する事により、今後どのように活動していくのか方向性が出せた。
- 認知症の方をはじめ、様々な立場の方とのお話ができたのが良かったです。
- ご本人の話をたくさん伺うことができて良かったです。とても勉強になりました。
- 当事者の方のお話を聞いて、実感がわきました。家族のケアの必要性も大切。わかりやすく認知症の学びを伝える工夫も必要で、多くの人に認知症を理解してもらい、実践してもらうことが大切と思いました。
- グループワーク3のテーマ「自分が認知症になったときどんなふうに暮らしたいか」にすごく考えさせられました。当事者を目の前にするとより現実感を持って考えることができました。
- 話をする時間、他のグループの発表をきく時間がたっぷりとられていて良かったです。

- やりたいことができる、叶う社会、行く場所がある社会を官民連携でつくりあげていかないと！というキモチになりました。
- 様々な考え方がある事に改めて勉強になりました。
- 色々な立場の方と意見交換が出来て良かったです。
- 当事者、企業の話がたくさん聞けました（新しい発見）
- 地域、企業とのつながりがいかに必要か分かりましたが、具体的に何が出来るか、少しづつ進め、発展出来たらと思いました。
- 当事者からのお話や、おとしより相談センターの方のお話は、とてもためになりました。また、一緒に参加された方の意見も、自分とは違った立場で気が付く事で、視点を変えるのは大事だと感じました。
- 事前に宿題があったことで、当事者の方や先生のお話も伺うことができ、とても有意義な時間を過ごせたと思いました。
- 認知症本人やいろいろな企業からの普段はなかなかきけない意見を聞くことができ、学びになりました。
- 多くの分野から出席された方々の意見は、見方（角度）が違うので参考になった。
- 様々な事業者様と意見交換を行うことができ、新しい視点で認知症を捉えることができた。本日得た学びを業務で活かしたい。
- 認知症の当事者の方がグループについて、貴重なお話を伺えたのがよかったです、それを企業の方も聞いて、意見交換できたことがとてもよかったです。
- グループワークで認知症当事者の方の具体的な話を聞くことができた。本人が行っていることやこれまでの体験談など、聞いてみないとわからないことがたくさんあった。
- 認知症の方が住み慣れた場所で住み続けられるよう、企業の方と話ができるて、課題となっていることがよくわかりました。
- 色々な方との話が聞けたから。成増包括の官民連携の活動がとても良かった。
- 今日のようなグループだと、認知症のことで知りたいことを経験としてうかがえたのでよかったです。

2 認知症について知りたいことや興味があること、聞いてみたいこと（抜粋）

- 認知症の種類ごとの説明
- 予防としてのフレイル活動
- 具体的なサポート
- 当事者として日常生活で注意する事
- 民間企業との連携について、今後もっと取り組んでいきたいです。
- 認知症になった人が自分の症状に気付いても認めづらい状況を目にするの

で、ソフトに気づきを受容できるような仕組みがあるとよいと感じました。

- 成増包括の取り組みがサラッと発表されましたが、あんなに地域の企業を巻きこむイベントをするなんて、そうとうのご努力があったのでは……どんなプロセスでみんなをつなげていったのか知りたいです。
- ひきこもっている家族や本人へのアプローチを考えてみたい。
- 認知症のご本人の働く場所や内容をもっと知りたい。
- 普段の仕事をルーティン化していくと、対応に圧が加わっていることがあるのか、と考えました。認知症の方が焦らず、不安に思わない対応というのは、どういうものでしょうか？人によって違うとは思いますが、たくさんの当事者に対応している方の例をお聞きしたいです。
- お一人暮らしの方のお誘いの仕方、お知り合いを作るためのおつなぎの仕方、具体的な対応のコツを知りたいです。
- 認知症本人からの意見がとても勉強になりました。本人と意見交換できる場をもちたいです。
- ケーススタディ 例：店頭に認知症の方がご来店され、困りごとがある様子。⇒民間（社員）はどう対応すれば良いか
- 成年後見制度の利用について学びたい。
- 症状別のコミュニケーションのとり方を学びたい。
- 認知症といつても人それぞれ違う、個別性があると思う。医療、介護している人、当事者など、色んな立場の方の話を聞くことができれば良いと思う。
- 認知症の方が集まれる居場所などを知りたいです。
- アルツハイマー型認知症以外の認知症の話を聞いてみたい。



7. 次回の開催予定

日 に ち 令和8年6月頃

会 場 未定

